

2026年3月期第2四半期（中間期） 決算説明資料



2025年11月13日

株式会社
日本動物高度医療センター
（東証グロス：**6039**）

イラスト：セツサ チアキさん

1. 2026年3月期 第2四半期（中間期）決算概要
2. 業績予想の再修正
3. 成長戦略
4. Appendix：表紙のイラストについて

1. 2026年3月期 第2四半期（中間期）決算概要

26/3期 事業方針

- ・診療体制の強化：診療キャパシティを拡大し、高まる需要に応える
- ・中計達成の取組み：成長投資を拡大し、計画達成と持続的成長を実現する

Q2業績

- ・ **中間期／四半期ともに売上高・各利益で過去最高を更新**
- ・ Q1に続き、**業績予想を上方修正**
- ・ 投資による費用計上は主にQ4となる見込み（計画通り。業績予想の修正にも反映済み）

売上高
3,033百万円
前年比 **+18.1%**

売上総利益
1,210百万円
前年比 **+35.9%**
利益率 **+5.2%**

営業利益
591百万円
前年比 **+68.4%**
利益率 **+5.8%**

EBITDA
900百万円
前年比 **+41.0%**
EBITDAマージン **+4.8%**

Topic 1：業績予想を再修正

- ・ **6月の価格改定の影響は見られない**ことがさらに明確に
- ・ **生産性、診療品質の向上**が進み、診療受け入れ能力が拡大（ただし、未だ途上）
- ・ **成長投資による先行コスト**：主にQ4に費用計上

Topic 2：診療体制の強化

- ・ **診療BPRの取組み**：生産性と品質向上で成果
- ・ **人事制度刷新**：予定通り10月から運用開始
- ・ **医療設備、デジタル化投資**：Q4にさらなる費用増を見込む

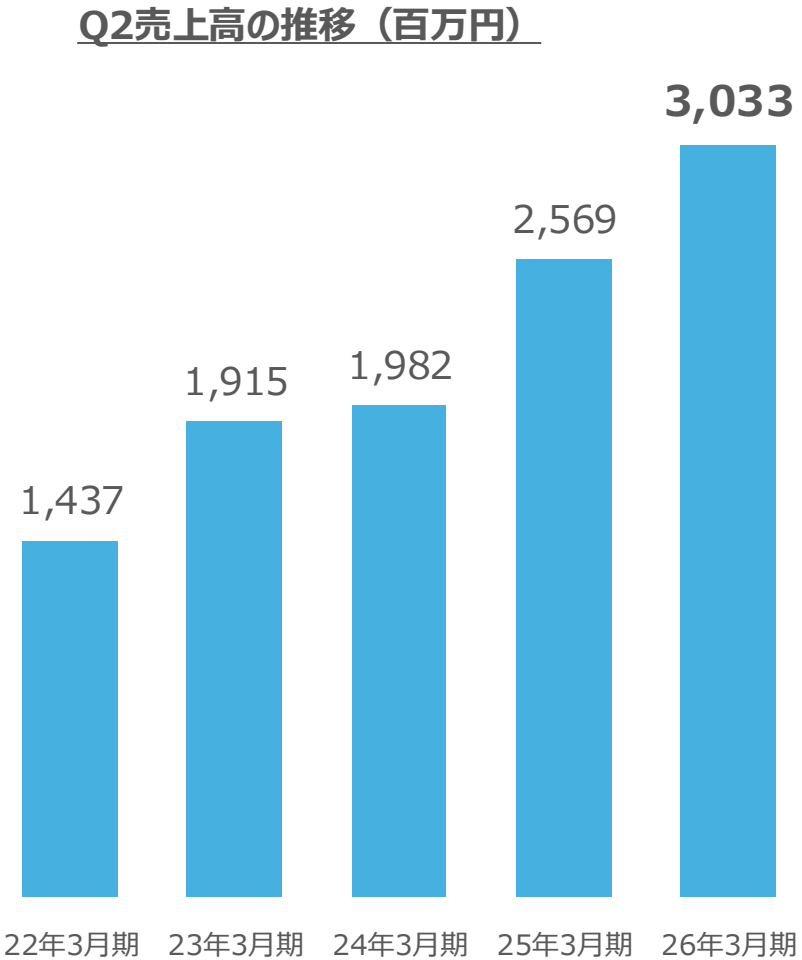
Topic 3：持続的成長への取組み

- ・ **名古屋リニューアル、福岡新設**：ほぼ予定通り進捗
- ・ **次世代型新電子カルテ**：成長戦略の最重要施策。予定通り進捗
- ・ **グループ戦略**：戦略策定はほぼ完了、11月から実行フェーズへ

2026年3月期 第2四半期（中間期）決算サマリー

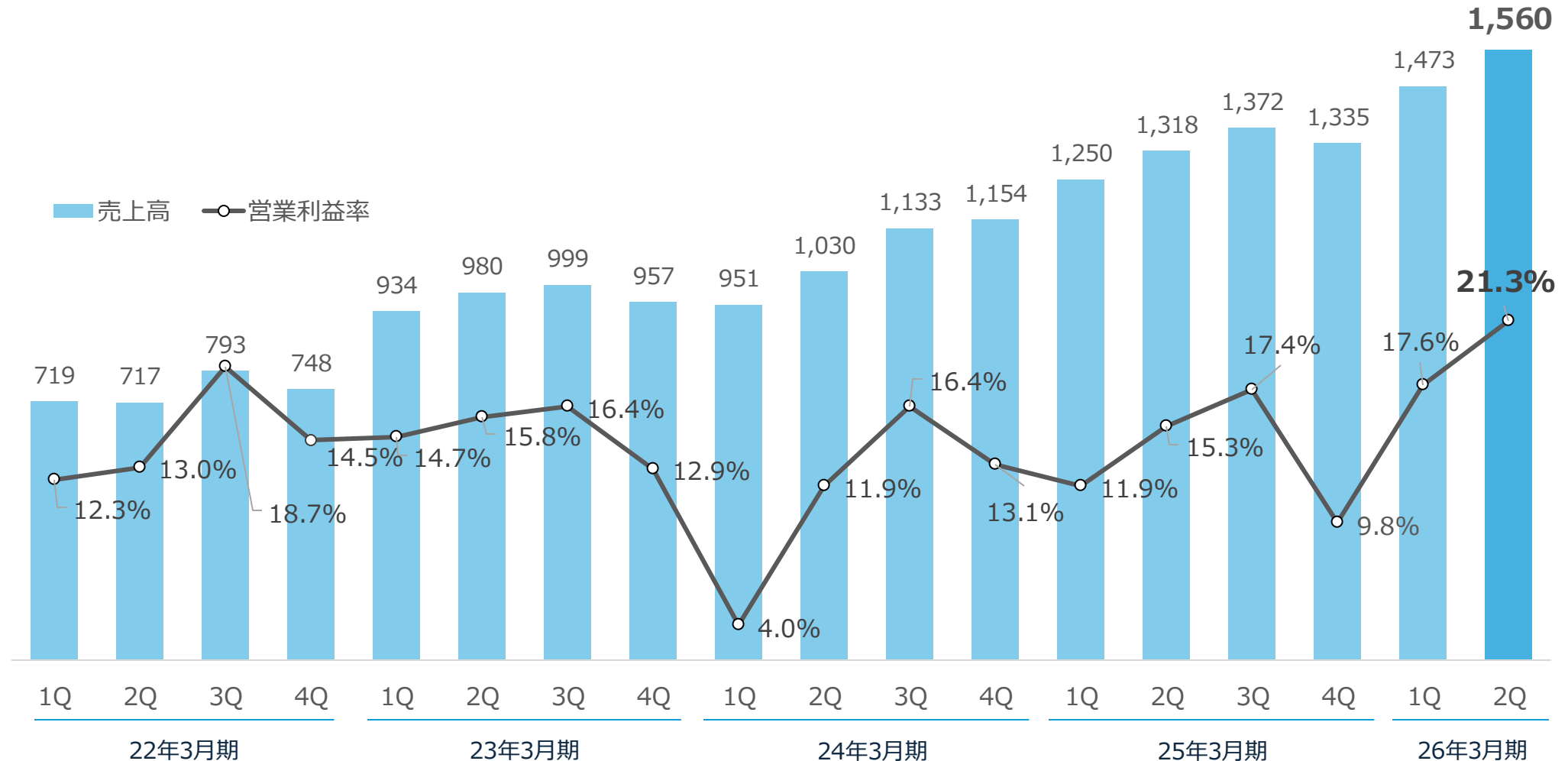
- 中間期／四半期ともに売上高・各利益で過去最高を更新
- 収益性・生産性が向上・・・売上高総利益率は前年比＋5.2㊦、営業利益率は前年比＋5.8㊦に

(百万円)	2025年3月期	2026年3月期	
	Q2実績	Q2実績	前年比増減
売上高	2,569	3,033	＋18.1%
二次診療サービス	1,837	2,204	＋20.0%
画像診断サービス	267	315	＋17.9%
動物用医療機器・健康管理機器のレンタル・販売	459	507	＋10.3%
売上総利益	890	1,210	＋35.9%
売上高総利益率	34.7%	39.9%	＋5.2㊦
販売費及び一般管理費	539	619	＋14.7%
営業利益	350	591	＋68.4%
売上高営業利益率	13.7%	19.5%	＋5.8㊦
経常利益	351	589	＋67.5%
親会社株主に帰属する 中間純利益	242	413	＋70.2%
EBITDA	639	900	＋41.0%



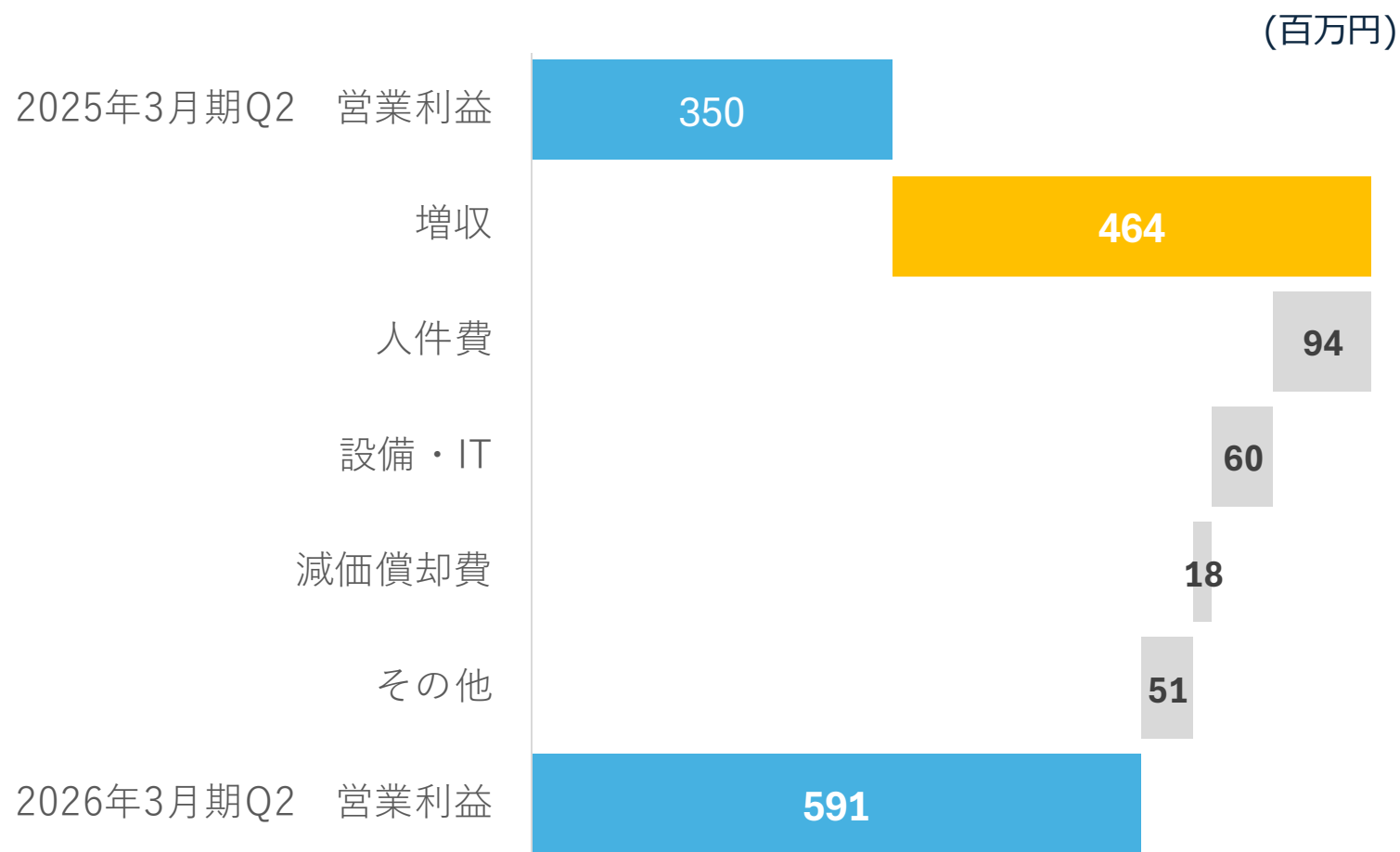
四半期毎の業績推移

- 価格改定を6月から実施したが、**診療数等への影響は現時点で見られず**、順調に増加
- 診療体制強化は進んでいるが、依然として**需要が当社の供給能力を上回る**状態が続いており、引き続き、診療受け入れ能力の向上を進める方針



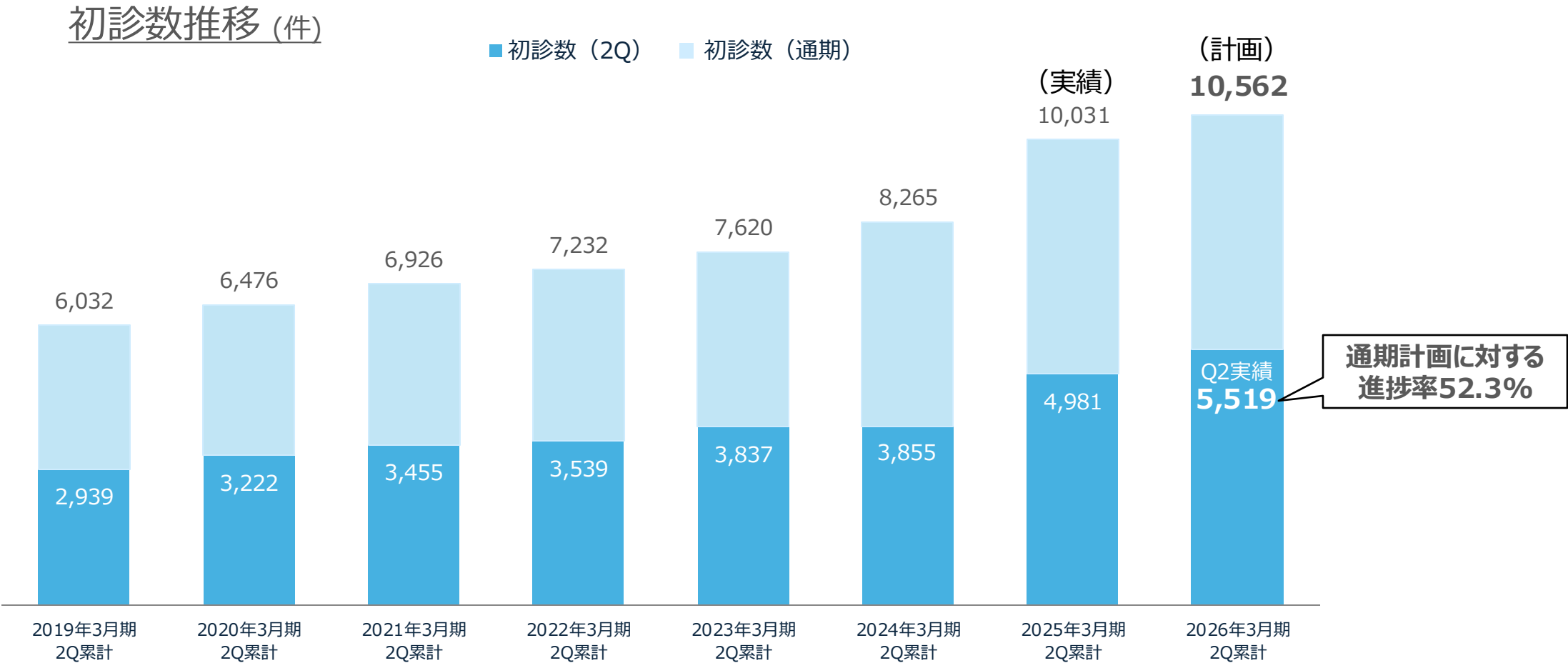
営業利益と増減要因

- 診療受け入れ能力拡大へ積極投資（人的資本、医療機器、IT関連）を行ったが、生産性向上、価格改定による増収効果でカバー
- Q4に投資を拡大し、中期計画達成と来期以降の持続的成長を目指す



事業KPI：初診数（紹介数）

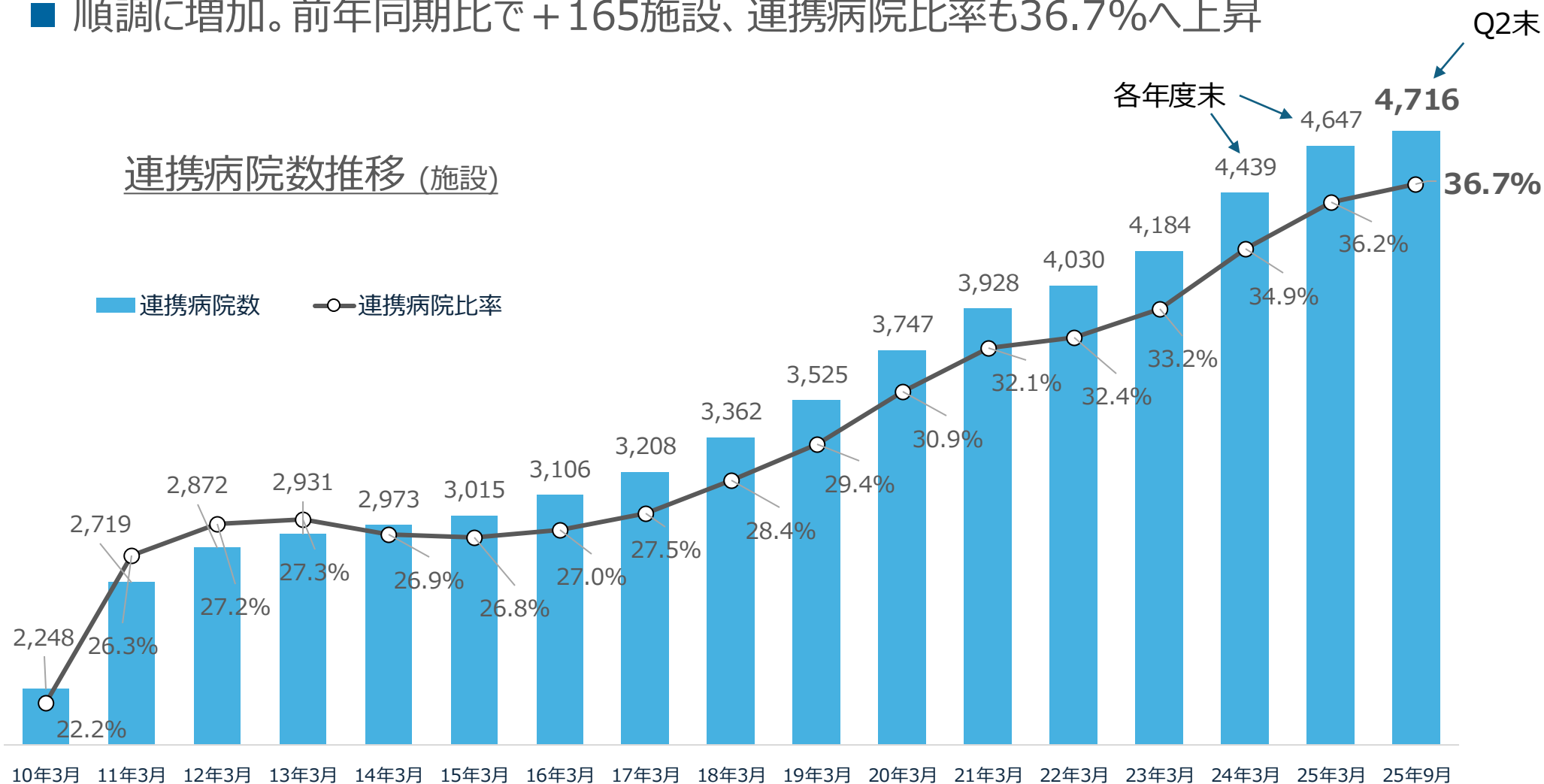
■ 二次診療ニーズの拡大、診療受け入れ能力の向上、連携病院数の増加等により順調に拡大



事業KPI：連携病院数

■ 順調に増加。前年同期比で+165施設、連携病院比率も36.7%へ上昇

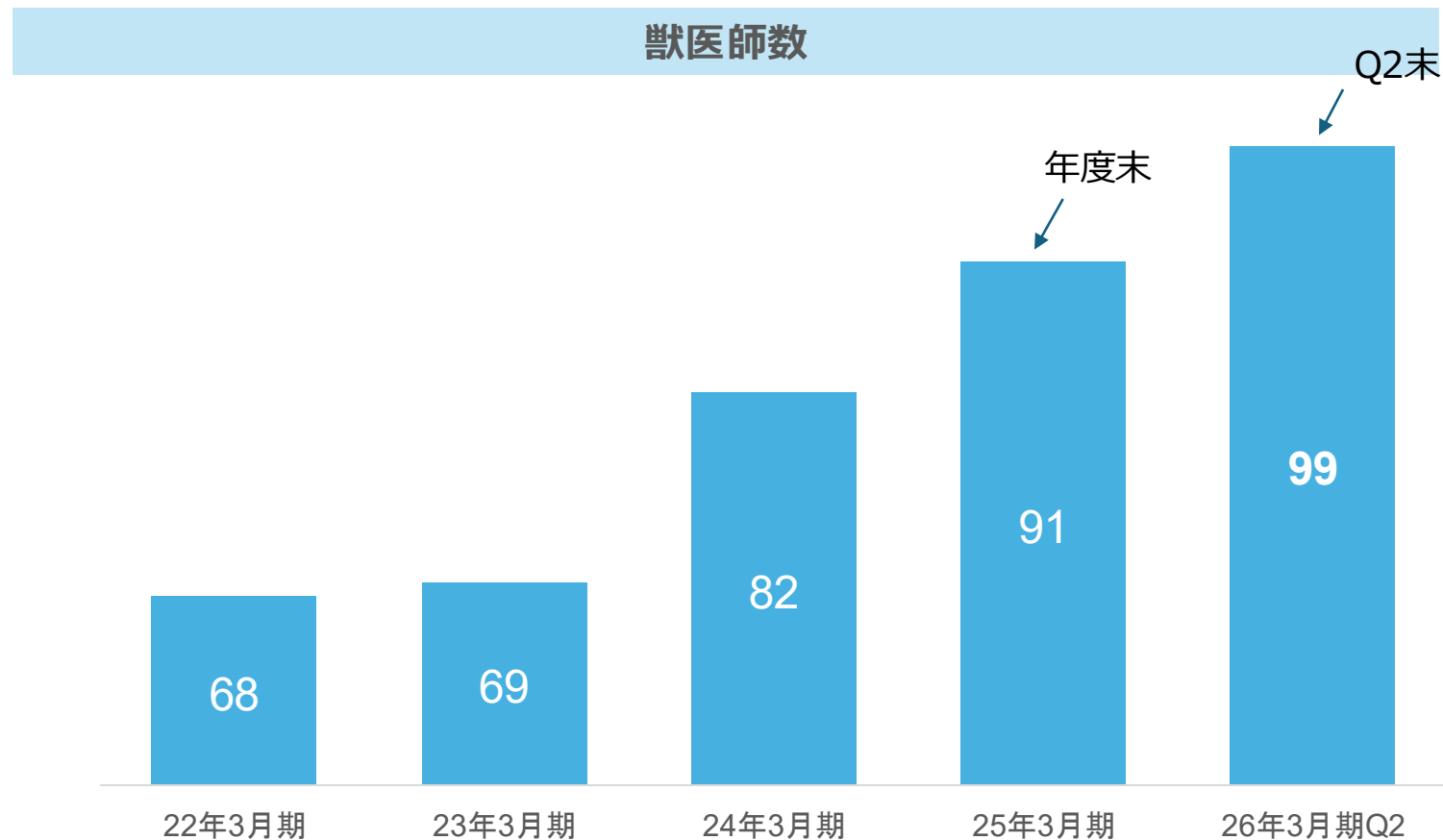
連携病院数推移 (施設)



*連携病院比率は農林水産省（令和6年12月末時点の小動物診療施設の件数）の開設届出数をもとに算出

事業KPI：獣医師数の推移

- 新卒採用は好調に推移、中途採用も強化中
- トップランナーとしての処遇確立へ、人事制度を全面的に刷新。10月から運用開始



2. 業績予想の再修正

業績予想の再修正（本日開示）

■ Q1に引き続き上方修正

- ・ 生産性、診療品質の向上が進み、**診療受け入れ能力が拡大**（ただし、未だ途上）
- ・ 価格改定による診療数への顕著な影響は見られず、**診療数は計画を上回って増加**

■ 投資・コスト

- ・ 主にQ4に投資拡大。Q3～Q4合計で費用増・約170百万円（約7割が一時コスト：※）を見込む

※ 内容：人的資本（採用経費、人事制度刷新等）、電子カルテ等デジタル化、セキュリティ対策・ITインフラ刷新、設備補修、医療機器追加・更新、マーケティング投資、等

前回予想			今回の予想修正					
	期初発表 業績予想 (百万円)	Q1発表 修正予想 (百万円)	今回の修正予想 (百万円)				Q2実績対比 (百万円)	
			今回発表 修正予想	期初予想 からの増減	Q1発表予想 からの増減	前期実績 比増減	Q2実績	修正予想対比 進捗率
売上高	5,810	5,960	6,100	+ 290	+ 140	+ 15.6%	3,033	49.7%
営業利益	725	857	1,040	+ 315	+ 183	+ 44.2%	591	56.8%
経常利益	725	857	1,030	+ 305	+ 173	+ 43.0%	589	57.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	525	610	730	+ 205	+ 120	+ 40.1%	413	56.6%

3. 成長戦略

当社グループの事業・サービス実績（25/3期実績）

いずれも日本のトップランナー

JARMeC

直近1年・二次診療の初診数

(JARMeC、25年3月期)

10,031 頭

JARMeC

直近1年・二次診療の総診療数

(JARMeC、25年3月期)

34,991 件

JARMeC

直近1年・二次診療の手術数

(JARMeC、25年3月期)

3,068 件

JARMeC

キャミック

直近1年・画像診断数

(キャミック含む、25年3月期)

10,686 件

テルコム

酸素ハウス新規ご利用件数

(テルコム、25年3月期)

24,250 件

JARMeC

キャミック

獣医師数

(キャミック含む、25年4月末現在)

122 名

JARMeC

連携病院数

(25年3月末現在)

4,647 施設

JARMeC

一次診療施設様との
連携病院比率

(25年3月末現在)

日本の全動物病院の36.2%

当社の二次診療領域とグループ各社には**大きな成長余地**があると考えております。理由は以下の通り。

① 空白エリアの存在

- 名古屋や福岡といった、当社のサービス提供体制が手薄な、あるいは存在しない地理的な空白エリアが存在。これらの地域への展開は、飼い主様、地域の一次診療施設様に貢献し、当社の事業規模拡大、企業価値向上の重要な機会となる。

② 診療ニーズの拡大、需要超過の恒常化

- 現在、当社の各病院には、受け入れ能力を常に上回る診療希望が寄せられている。当社が提供する医療サービスの質の高さと、高度医療に対するニーズ拡大によるものと想定され、診療受け入れ体制の強化による成長余地は大きい。

③ ご紹介件数と連携病院数の自然な拡大

- ご紹介件数および連携いただく一次診療施設様の数は継続的に増加。質の高い医療と信頼関係の蓄積が認知の拡大に寄与。一次診療施設様との関係強化策等による、さらなる連携病院数の拡大、紹介数増加の余地は大きい。

④ グループ連携による拡大余地

- グループ各社は、いずれも一次診療施設様からのご紹介を通じて、相互に関係性のある専門サービスを展開している。グループ全体での協調的なマーケティングや営業戦略等により、グループ戦略の効果発揮の余地は大きい。

⑤ デジタル化と、効率改善に大きな余地

- 動物医療業界はデジタル化・ペーパーレス化の余地が多く存在。また、人や設備・医療機器の稼働状況の可視化を通じ、リソース配分の最適化が可能。デジタル化の促進により、生産性の大幅な向上と診療受け入れ能力の拡大が見込まれる。

⑥ 日本トップの診療データ

- 膨大な診療データを保有し、日々最新データが蓄積されているが、これまで活用は限定的であり、大きな可能性が存在。この貴重なデータ資産を分析活用することで、診断・治療のさらなる高度化、最適な医療提供体制の構築、新たなサービスの開発、そして日本の動物医療への進化に貢献できる可能性は大きい。

当社の特徴と他の二次診療との比較

- 二次診療領域において、高い優位性
- これが**高い顧客満足度、診療数の拡大**につながっている

病院の区分	JARMeC	獣医科大学病院	単科二次診療所
休診日	年中無休	土日祝・夏季・年末年始は休業	365日営業が難しい
診療科数	12	10~19	1
診療の特徴	人材と設備・受け入れ体制・ チーム医療で優位	学生教育・研究に重点 急患対応が難しいなど	総合的な対応が難しい 大型投資が難しいなど

高い優位性の理由

先進医療の実践力

- ① 高度な医療技術
日本トップの診療実績
- ② 優秀人材の確保と
独自の育成システム
- ③ 最先端の医療機器と資金調達力

充実の受け入れ体制

- ① 12の専門診療科
- ② 年中無休
迅速な急患対応
- ③ 常に飼い主様に寄り添う
高いホスピタリティ

チーム医療による包括ケア

- ① 当社内：専門診療科の枠を超えた
チーム医療の実践
- ② 一次診療施設様への情報共有と
サポートによる密な医療連携

中期計画の進捗

- 1年目はほぼ全項目で達成。**2年目である当年度も好調に推移し、計画を上方修正。**
- **営業利益目標は、来期の計画を、今期に1年前倒して達成する見込み**
- 最終年度である27/3期の計画の修正は、今期の成長投資の結果を踏まえ、通期の決算発表と同時に開示する予定

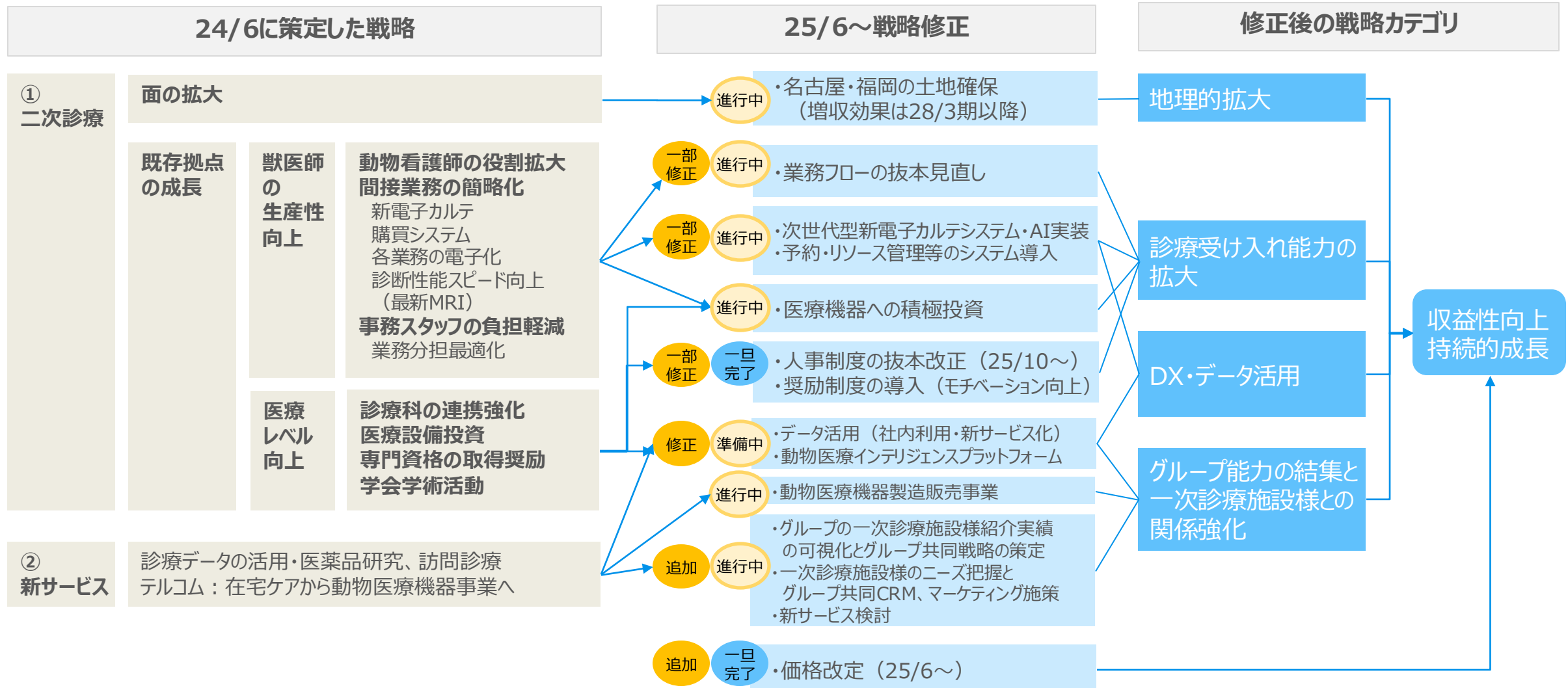
	1年目（25/3期）		2年目（26/3期、当年度）			最終年度（27/3期）	
	24/6発表 当初計画	実績	24/6発表 当初計画	25/8発表 修正計画	25/11発表 修正計画	24/6発表 当初計画	25/8発表 修正計画
病院売上高	3,457	3,786	3,792	4,300	4,450	4,151	4,550
連結売上高	4,820	5,277	5,268	5,960	6,100	5,707	6,200
連結営業利益	625	720	857	857	1,040	1,002	1,040
ROE（%）	11.0%	13.1%	13%以上	13.4%	16.3%	14%以上	14%以上

- ・ 本日付の業績予想修正を反映
- ・ 来期の営業利益目標は、**1年前倒して達成する見込みに**

今回（25/11）での計画修正は行わず、26/3期決算発表時に業績予想として開示予定。

中期計画：戦略方針

- 24/6策定の戦略を修正（すでに開示済み）。目的は、**中計最終年度である27/3期からの成長スピード向上**
- その実現のために、**26/3期は成長投資を拡大**



- 既存戦略（地理的拡大、診療体制強化）を着実に進めるとともに
- 新たな成長の柱として、**AI活用も含めたDX・データ活用戦略**を推進
- 二次診療に特化し、一次診療施設様との連携・支援の実施、動物医療の進歩に貢献する

現在の進捗

1

地理的拡大

名古屋病院 リニューアル（診療能力2.5倍へ拡大、2027年春を予定）
九州・福岡への展開（2027年末以降を予定）

進行中

2

診療体制強化

人的資本への投資拡大、計画的な専門人材確保と育成策
診療フロー最適化、**AIを実装した次世代型電子カルテシステム**

人的資本：進行中
システム：要件定義フェーズ

3

グループ能力の 結集

画像診断（キャミック）、**二次診療**（当社）、**在宅ケア**（テルコム）の
専門能力を結集し、**一次診療施設様への支援と関係強化**を図る

戦略策定完了
今後実行フェーズへ

4

DX・データ活用

AI実装・次世代型新電子カルテシステム
動物医療インテリジェンスプラットフォーム構想の実現へ

- ・ 豊富な画像診断・診療データの活用、匿名データ提供・解析が可能なデータ基盤を構築、当社電子カルテシステムと結合
- ・ AI画像診断、AI診療支援、電子カルテのAI自動入力など、AIを活用したサービス展開の検討
- ・ 全国の一次診療施設様、大学、製薬会社様等への提供と協業を目指す

要件定義フェーズ
AIはテスト開始

- 建設業界の状況にもよるが、早期開業を目指し、計画的に準備
- 開設資金の調達は、自己資金および銀行借入れで行う方針

名古屋病院リニューアル

- ・現病院の隣接地にリニューアル予定。土地確保済み。
- ・**診療能力は2.5倍**に拡大、**最新の放射線治療施設**も併設予定
- ・2027年春の開業を目指し、設計が進捗中

九州・福岡への展開

- ・土地確保済み
- ・2027年末以降の開業を目指す
- ・他エリアと同様に、**地域の一次診療施設様との連携を深め、協力体制の構築**を目指す

- 拡大するニーズに対応するため、高度人材の確保と育成、診療品質と生産性の向上を総合的に実施

人的資本

【 】：現在の進捗

- ・**トップランナーとしての処遇の確立**へ、人事諸制度を全面的に刷新 【25年10月から運用開始】
- ・知名度上昇に伴い**採用が好調に推移している新卒獣医師**の育成強化、早期戦力化 【推進中】
- ・成長戦略を踏まえた計画的な専門人材確保、チーム診療のさらなる高度化 【推進中】

診療品質のさらなる向上

【 】：現在の進捗

- ・診療プロセスの全面的な見直しと再構築 【BPRの結果を順次導入中】
- ・**次世代型新電子カルテシステム**（獣医師が診療と飼い主様コミュニケーションに集中できる体制へ） 【現在、要件定義フェーズ】
- ・電子カルテ自動入力や画像診断支援など、**AIを活用した支援システム**の検討 【現在、要件定義フェーズ・一部テスト】

医療機器への投資拡大

【 】：現在の進捗

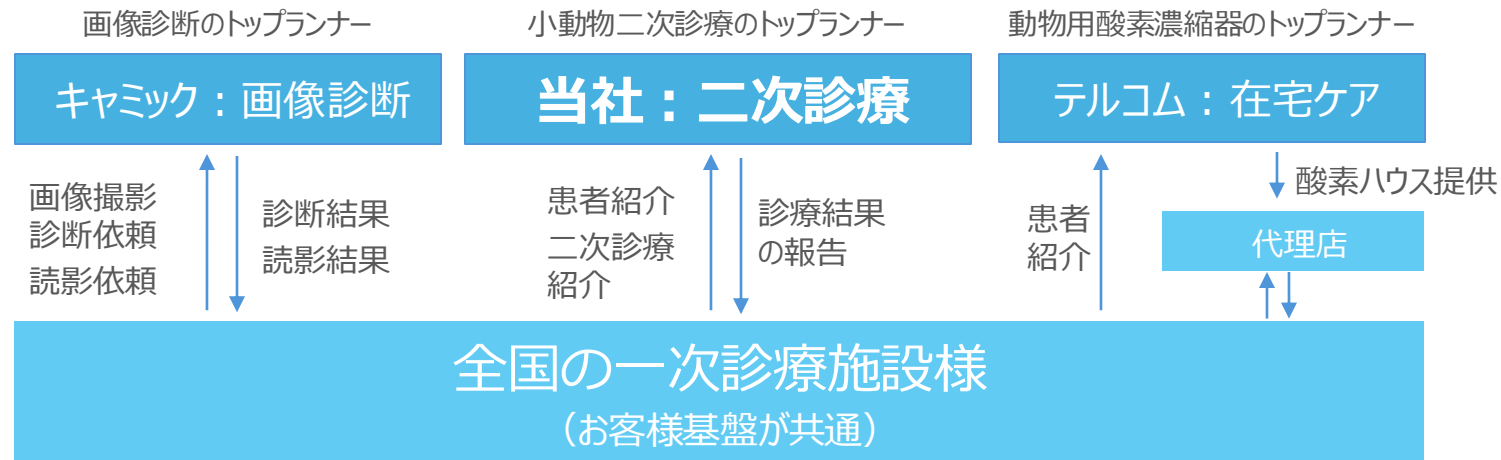
- ・川崎本院のMRIを最新型へリプレイス、CTも追加し2台体制へ移行 【追加CTの稼働は12月末から、MRI更新は3月に決定】
- ・その他、各病院の医療機器・設備の刷新、ITインフラの整備を実施 【ITインフラ刷新は26年4月予定で進行中】

成長戦略 ③ グループ能力の結集

- 当社グループ3社の共通点
 - ① **独自の専門性**を有する ② その分野での**トップランナー**
 - ③ **お客様基盤が共通**（一次診療施設様から紹介された飼い主様へサービスを提供）
- 戦略的連携により、紹介元である一次診療施設様との関係強化、サービス提供機会の拡大を目指す

現在の進捗状況

- ・ 各社の成長戦略、連携施策はほぼ完了、11月から実行フェーズへ
- ・ CRMシステム基盤は、新電子カルテとあわせて設計開始



- 当社は小動物二次診療のトップランナーとして、最も多くの画像データ・診療データを保有、最新データを蓄積
- この優位性を生かし、AIも含めたDX・データ活用戦略を推進。
新サービスの創出、一次診療施設様への支援、動物医療の進歩への貢献を図る

現在の進捗

次世代型新電子カルテシステム

- ・AIも活用した、**徹底的なデジタル化**で、診療業務の負荷を軽減
(2026年夏から秋以降に順次稼働予定)
- ・獣医師が**診療と飼い主様コミュニケーションに集中**できる体制を早期に構築
- ・症例情報・診断支援システム等の提供で、一次診療施設様への支援と関係強化を図る

要件定義フェーズ
AIはテスト開始

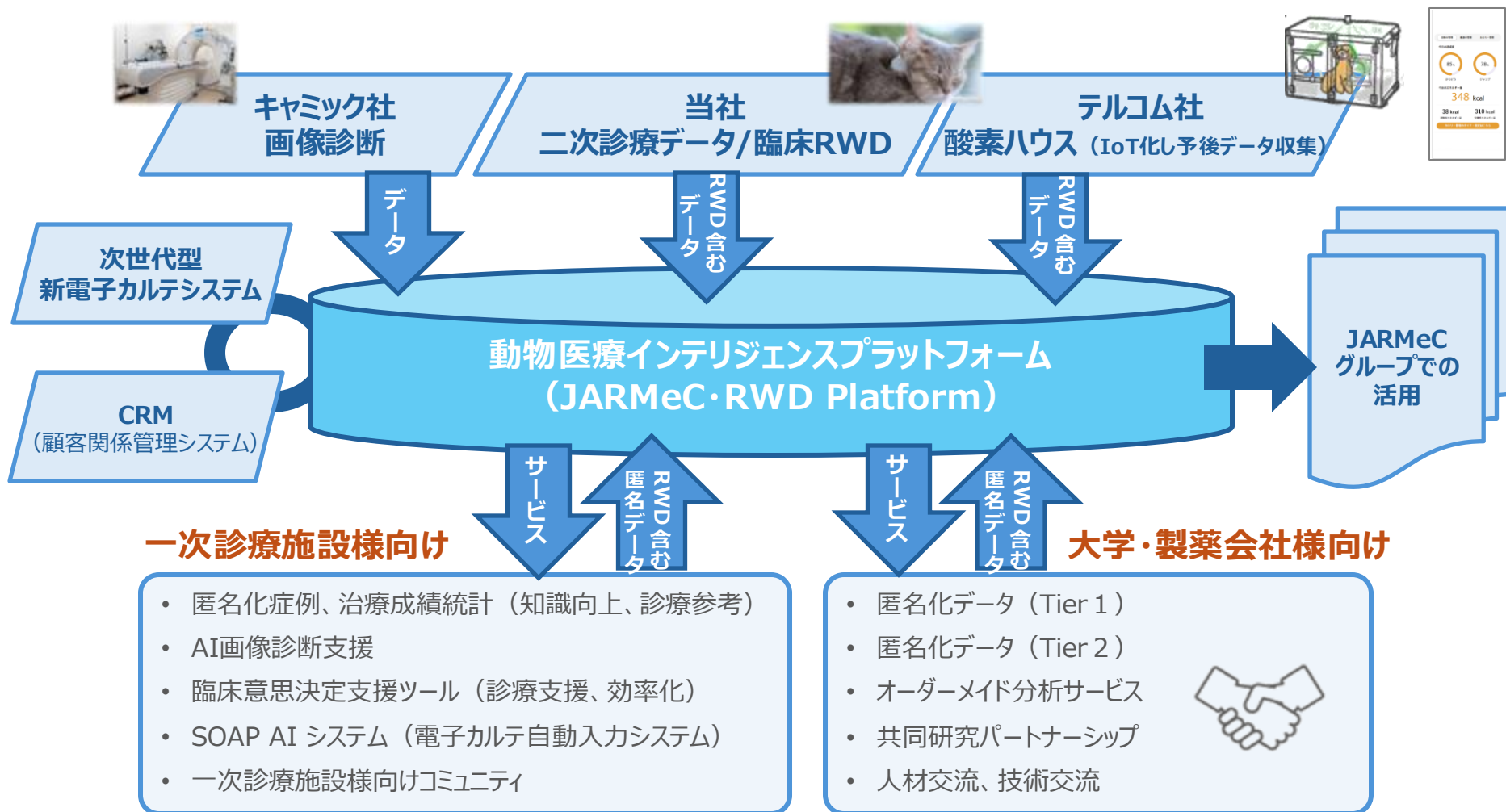
動物医療インテリジェンスプラットフォーム構想

- ・日々蓄積される**膨大な画像診断・診療・予後データを活用**
- ・**当社は二次診療に特化**し、一次診療施設様向けに以下の支援を実施予定
 - ・AI画像診断、匿名化症例、治療成績統計等
 - ・AI電子カルテ自動入力システム、AI診断支援等

構想段階

動物医療インテリジェンスプラットフォーム構想（イメージ）

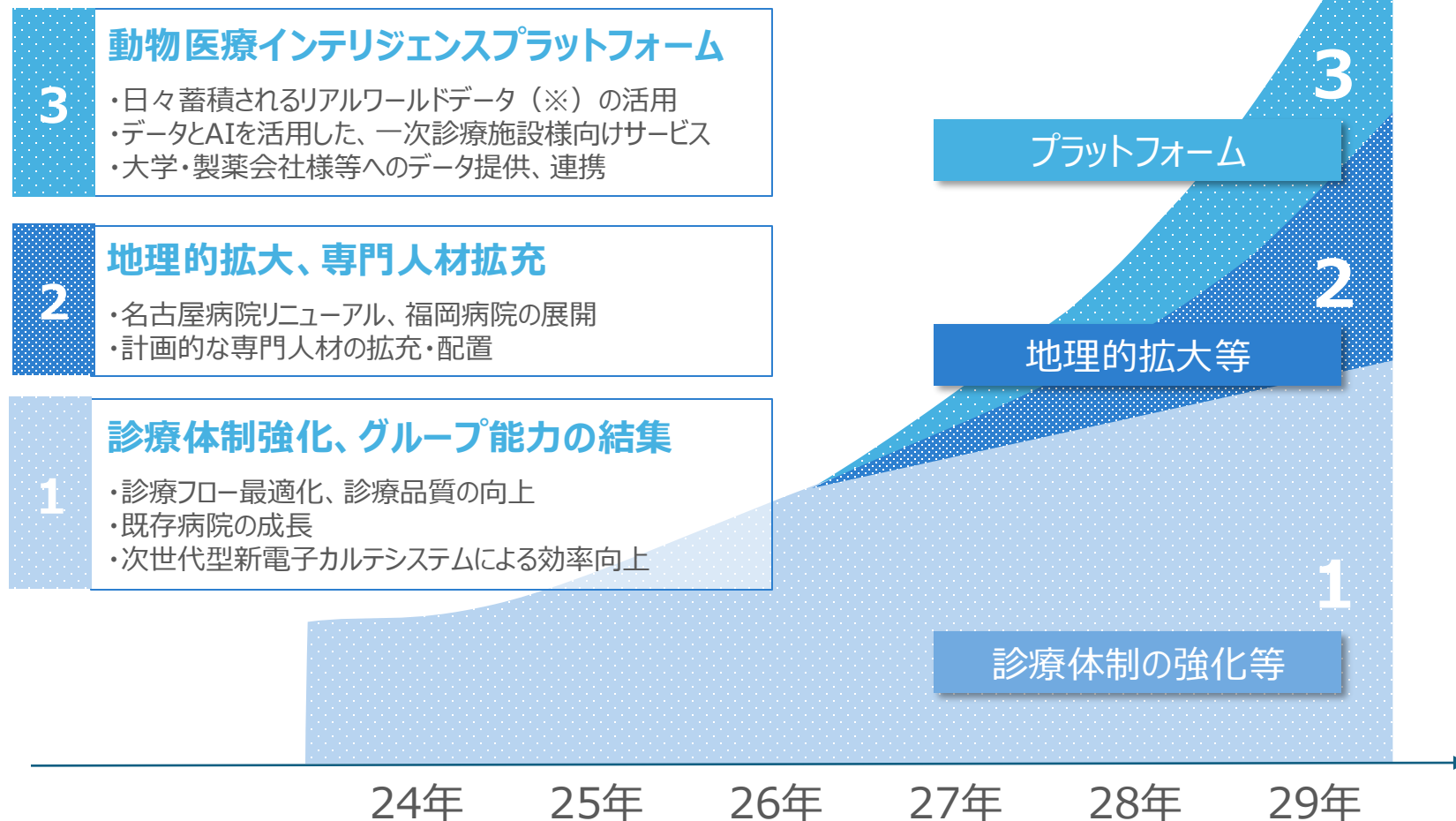
RWD（リアルワールドデータ）：医療現場で得られる各種医療データの総称。ヒトの医療では官民挙げて、活用が進められている。



持続的成長へ向けた取り組み

※リアルワールドデータ（RWD）

医療現場で得られる各種医療データの総称。
ヒトの医療では官民挙げて、活用が進められている。



Appendix : 表紙のイラストについて

「救える命を少しでも増やしたい」 高度医療の認知向上を目的とした啓発プロジェクトを開始

私たちJARMeCは、イラストレーター・セツサ チアキさんにイラストをご提供いただき、動物の二次診療や献血の重要性を広く伝える啓発プロジェクトを開始いたします。（セツサ チアキさん：<https://www.setsusachiaki.com/>）

セツサ チアキさんは、愛犬との暮らしや盲導犬関連の経験を通じ、動物への深い愛情を作品に表現し続けています。その温かなイラストは、「救える命を少しでも増やしたい」という当センターの想いと強く共鳴するものです。

今後、こういった取り組みを通し、飼い主様のウェルビーイング向上と動物医療への理解を広げていきたいと考えています。



【この挿絵に込めた思い（セツサ チアキさん）】

JARMeC川崎本院を訪問した際、入院している犬や猫たちの姿がとても印象に残り、
「早く元気になって、おうちに帰れますように」
という想いを込めて描きました。

それぞれ、**「安心して眠る」「元気に遊ぶ」**様子を表現しています。



「高度医療」という諦めないための選択肢

大切な家族である犬や猫にも、**当社だけでなく獣医科大学病院や民間の専門病院を含む「二次診療」という高度医療の選択肢**があることを、より多くの飼い主様に知っていただくことで、助けられる命がさらに増えたと信じています。



献血で「仲間の命」を救う協力の輪を広げたい

人の献血と同様に、犬や猫の世界にも、**仲間の命を救う「献血ドナー」**という小さなヒーローが存在します。その尊い活動を知っていただき、ご協力の輪を社会全体で大きくしていきたいと考えています。**当社だけでなく、獣医科大学病院、一部の一次診療施設様でも献血を必要としていて、たくさんの救える命がそこにあります。**



言葉を話せない家族だからこそ、かかりつけ医（一次病院様）を

犬はもちろんとして、**受診率が低いとされる猫も**、日頃から健康を見守る**「かかりつけ医」（一次診療施設様）**を持つことの重要性を伝えていきたいと考えています。

＜見通しに関する注意事項＞

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、
将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

＜お問い合わせ先＞

株式会社日本動物高度医療センター
管理本部 経営企画課 IR担当
e-mail : ir@jarmec.jp